

平成 29 年 11 月 1 日

当院の救命救急センターに入院された患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ております。

[研究課題名]

重症患者における末梢静脈カテーテルによる静脈炎の発生頻度とそのリスク因子の検討

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属]

(氏名) 立道貴清 (所属) 香川大学医学部附属病院薬剤部 (職名) 薬剤師

この研究は亀田総合病院を主幹機関とする多施設共同研究として行います。

[研究の目的]

この研究は、治療に必要な静脈カテーテルが患者に与える影響を、救命救急センターに入室した重症患者さんの背景(年齢、性別、入室理由、重症度など)、静脈路の種類、投与薬剤等の基礎データを収集し、静脈炎を主体とする合併症の発生頻度と危険因子を調査することによって、末梢静脈カテーテルを安全に管理し静脈炎等の合併症を予防することを目的としています。また、挿入されている血管内カテーテルの種類と頻度の調査や静脈カテーテル管理における安全管理とICUに専任している薬剤師の有用性の評価を目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2018年1月1日から2018年3月31日の間に当院の救命救急センターに入室した18歳以上の全ての方を対象にしています。

○利用する検体・診療情報

診療情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、重症度、入院日時、ICU入室日時、入院理由、入室時にすでに挿入されているカテーテル、カテーテル挿入部位、カテーテルの材質・サイズ、ドレッシング方法、当該カテーテル毎にICU入室時に投与されている薬剤情報、挿入されているカテーテルの種類及び挿入場所・挿入者、カテーテル挿入及び抜去日時、カテーテル挿入時の消毒薬、カテーテル挿入時の超音波の使用の有無、カテーテル穿刺時の穿刺回数、非滅菌手袋使用有無、滅菌手袋の有無、それぞれのカテーテルから投与された薬剤情報、カテーテル刺入部の所見、カテーテル抜去の有無・日時・理由、当該カテーテル挿入期間中の感染症の有無とその種類、ICU退室日時、ICU退室時転帰、退院日時、定員時転記、ICU及び院内死亡の有無、死亡日時

[外部への診療情報の提供]

利用する本学所持の診療情報等は患者さん個人が特定できない状態とし、郵送及び電子システムを利用して、下記の研究組織へ提供します。

[研究組織]

亀田総合病院 林淑朗
山形大学 森兼啓太
慶應義塾大学 阿部貴行
慶應義塾大学 武林亨
聖マリアンナ医科大学病院 前田幹広
亀田総合病院 近藤夏樹
亀田総合病院 山本良平
亀田総合病院 谷本唯
亀田総合病院 高瀬暁
宝塚市立病院 小林敦子
武蔵野赤十字病院 岸原悠貴
自治医大さいたま医療センター 讃井将満
京都医療センター 西山慶
藤田衛生保険大学 藤井健一郎
広島大学病院 志馬伸朗
仙台市立病院 安藤幸吉
湘南鎌倉病院 小室哲哉
堺市立総合医療センター 村上紗羅
JA 広島総合病院 櫻谷正明
東北大学病院 志賀卓弥
日本赤十字社和歌山医療センター 小谷祐樹

[研究代表者]

亀田総合病院 集中治療科 安田英人

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1
香川大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師：立道貴清

電話 087-891-2314 (直通)

FAX 087-891-2016